



学び舎へ行くまちの宝を

見守るまなざしは今日も優しく

profile

昭和50年4月29日生まれ。虻田4区在住。虻田町出身。趣味は旅行。

# Spotlight

スポットライト



交通安全指導員

## 岩倉 三紀 さん

**小** さな背中にランドセルを揺らす新1年生が、今年の春も通学路を歩いていきます。街角を元気な姿でにぎわせていますが、登下校は危険と隣り合わせ。街頭に立つ交通安全指導員が各所で事故に目を光らせます。

岩倉さんの担当は高砂町の交差点。朝は頻繁に車が行き交い「スピードを出す人が多くて。大人の方がルールを守れていないと感じます」。午前7時半ごろになると、姿を

見せるのは虻田小学校の児童。「警察みたいな帽子に戻ったね」。冬用の帽子から衣替えした岩倉さんに笑いかけると、「横断中」の黄色い旗を振られて止まった車を横目に横断歩道を渡っていきました。

交通安全指導員の活動は長期休暇を除いて一年中続き、岩倉さんは低学年の登下校時間に合わせて一日2回、通学路に立っています。酷暑にも吹雪にもさらされる大変な仕

事です。「子どもたちに会えるから楽しいです。できる限り長く続けたい」と笑います。

指導員を続けることを悩んだのは2年前。がんに侵され、抗がん剤治療の副作用は容貌を変えてしまいました。再びいつもの交差点に戻る前、「驚かせてしまうのでは」との心配を吹き飛ばしてくれたのは自ら守ってきた子どもたち。「早く良くなるといいね」。もらった手紙につづられていた言葉が、今も足を前へと進めてくれます。

虻田で生まれ育った岩倉さんが子どもの頃、登下校のそばにいてくれたのは岩倉さんの前任の指導員。跡を継ぎ、同じまちの通学路に立つようになって10年以上が経ちました。まだあどけなかった子どもたちが子宝を見せてくれるようになるまで成長し「大人になっても声をかけてくれるのはうれしい。力になります」。守り、時に守られながら振られ続ける黄色い旗に導かれ、まちの宝は今日も通学路を歩んでいます。

### 東奔西走



今号で紹介した防災パネルディスカッションでは、パネリストから噴火当時の問題や今後の課題について語っていただきました。終始、緊張感に満ちた議論から噴火対策が年々重みを増している現実を実感しました。(D.Y)  
先日、新入学期に合わせた交通安全街頭指導に参加させていただきました。小学校へ向かう子どもたちが「おはようございます!」と挨拶してくれ、肌寒さも気にならなくなるほど、元気なパワーをいただきました。(Y.A)

### 町公式LINEを友だち追加!

イベントや防災など様々な情報に加え、フルカラー版広報紙もご覧いただけます!

